

# ハノイ稲門会



## ハノイ稲門会について

ハノイ稲門会は2002年の設立で、当初は小規模な集まりであった。近年、日本とベトナムとの関係がさまざまな分野で発展しているため、在留邦人数も増加し、それに伴って会員数も約50人にのぼっている。最近では女性の会員の増加が目立ち、現在およそ10名である。



白井前総長から贈呈された会旗



懇親会の様子

## ハノイの魅力

一つは気候が亜熱帯性のため、日本とはやや異なるが四季のあることだ。夏冬で気候の変動は厳しいが、季節感が保てることは、日本人にとってはありがたい。もう一つは、高層ビルが林立するほかの大都市と異なり、旧市街と呼ばれる市内の中心部に、いまだ低層の建物が並び、昔ながらの面影が残っていることだ。

また、村社会的なのも特色(知人は「世界最大の村」と評していた)で、少々お節介で口うるさいが、心根は優しいのがハノイ人気質である。なお、日本でもよく知られるベトナムのうどん「フォー」は、ハノイの名物である。

斉藤雄久(1985年社会学)



ホアンキエム湖のフク橋



フォー



オペラハウス

ハノイはベトナムの首都で、その人口は約650万人、在留邦人数は約4000人である。首都でありながら、南部のホーチミン市と比べ、残念ながら地味で陰の存在である。ハノイの歴史は古く、かつてはタンロン(漢字では「昇竜」と称し、2010年に遷都1000年を迎えた。ハノイは、他の東南アジアの大都市と違う2つの特色をもつ。

## ハノイ稲門会の人びと

### 会長メッセージ

ハノイ稲門会は、発足後10年と歴史は浅いのですが、日系企業の進出やその事業規模の拡大により、会員数が増え、現時点では50人ほどになっています。また会員の年齢層や仕事の業種が多岐にわたっており、ほかの集まりでは得られない情報の入手や、普段話することがない人達との懇親ができる有意義な集まりになっています。

2009年に三代目の会長に就任以来、多数の早稲田の先生方の来訪がありました。2010年には当時の白井総長をお迎えし歓迎会を開催しました。また、社会科学部のトラン先生とゼミ生の来訪は毎年恒例になり、楽しい懇談の場となっています。

また2011年には早慶対抗ゴルフを企画しました。団体競技の面白さを満喫でき、コンペは大変盛り上がりしました(2回開催して1勝1敗と拮抗しています)。



会員の入れ替わりが激しく、隠れた校友の「発掘」など新規加入者の勧誘が課題ですが、ベトナム人の校友も数多くいます。彼らも含めた、より楽しく有意義な懇親会を計画し、盛り上げていくつもりです。

大澤茂樹(1972年理工)

●青森の「みちのく銀行」から出向で、ベトナムハノイに赴任してから11年目(2007年に銀行を退職。現在は、青森市に「みちのくホスピタリティカンパニー」を設立)。現場の支店長から海外出向先のV-TOWER(オフィス&サービスアパートマネジメント)にきて津軽弁のみでマネジメントできたのも、ハノイ稲門会の皆さま方をはじめ、多くの駐在員に支えられてのこと。感謝、感謝です。また、2010年5月5日には、日本食レストラン「おふくろ亭」をオープンし、このお店もまた、多くの駐在員の皆さま方に支えられて2年目を迎えようとしております。

海外での仕事は、厳しい半面、多くの方々との出会いもあり、日本人であることのすばらしさを痛感できます。まだまだ55歳、目標が一杯。ベトナムハノイでがんばるぞ〜。

宮田敬一(1981年社会学)

### 会員からのメッセージ

●東京に憧れて早稲田大学の門を叩き、海外に憧れベトナムへ。岐阜の山奥に育った私にとって、日本以外の国で暮らし、しかも10年という長い歳月を過ごすことになるうとは、思いもありませんでした。

ベトナムでは好きなことを仕事にする夢がかない、現地フリーペーパーの編集者として働く機会にも恵まれました。また、日本にいたなら交流をもつこともなかったであろう素敵な方々と知り合えるという幸運もありました。その貴重な出会いの場の一つが稲門会でした。今後もベトナムでしか描けない夢を見つけ、この地の人たちともう少し一緒にがんばろうと思っています。

勝 恵美(1999年社会学)

●ハノイに赴任したのは2003年5月。以来、足掛け9年の滞在になります。この国で働いていて楽しいのは、多くの若者が高い向上心と克己心をもって勉強と仕事に励んでいること、そして日々彼らと接することで、高度成長期の日本を彷彿とさせる、国民の高揚感が感じられることです。まだインフラが未整備な状況でも、明日に希望がある——このような世界に身をおくことの幸せを味わっています。

先日、ベトナム人の早稲田への留学経験者と意見交換をする機会がありました。官庁、マスコミ、民間企業でこの国の成長を担う世代としてがんばっており、稲門の人びとが世界の津々浦々で活躍していることに感動を覚えた次第です。

大久保慎吾(1970年政経・経済)

●たまたまベトナムでビジネスを始めることになり、1年半。ベトナムへ一度も来たことがなく移住してしまっただけ、右も左もわからないことだらけ。そんな時に助けてくれたのが稲門会の先輩方です。ハノイでの生き抜き方、仕事の仕方など厳しくも優しい言葉で先輩方から教えていただいています。

実は在学中は「早稲田」に対するロイヤリティはあまり高くありませんでした。本部キャンパスに行くのも年数回……しかし、社会人になってみて、海外に出てみて、早稲田の卒業生で本当によかったとハノイ稲門会を通して感じています。

三好辰也(2007年理工)

# Hanoi

次のページもベトナムの稲門会から